昭和49年6月1日発行（毎月1回1日発行）第23巻・第6号　昭和29年6月23日　日本国有鉄道特別扱承認雑誌第2836号　昭和30年3月24日第三種郵便物認可

航空ファン

THE KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
三菱
雷電



☆特集☆
塗装が変った岩国航空基地の海兵隊機
アメリカの新型戦略爆撃機B-1の構造
BACライトニング戦闘機のよこがお

'74
JUNE
6

$3.30



初飛行したYF-16軽量戦闘機

去る2月2日、エドワーズ空軍基地で初飛行したYF-16軽量戦闘機の1号機。
(General Dynamics Photo)





両翼端にサイドワインダー・ミサイルのダミーを装備して離陸するYF-16 1号機。これもエドワーズでテスト中のシーン。
(General Dynamics Photo)


10



岩国基地に駐留する第232海兵戦闘飛行機"レッドデビルズ"のF-4JファントムII。新塗装になって、胴体に画かれていた"レッドデビル"が尾翼に移され、黒いコード・レターが赤地に白ぬきとはでなものとなった。







同じく岩国基地の第12司令部付整備飛行隊のTA-4F スカイホーク。







第12司令部付整備飛行隊が保有しているTA-4Fは現在6機。写真にはそのうちの1，3，6号機が映っている。右上の1号機は同飛行隊の司令官A.C.クレーン中佐の乗機。

TA-4F Skyhawks of H&MS-12 stationed at MCAS Iwakuni.


5
ED
155585
5



英空軍のライトニング戦闘機

Lightning F6 aircraft of 23 Sqn. [illegible]

英空軍第23スコードロンのライトニングF6戦闘機。同スコードロンはリューチャーズ空軍基地に配備され防空任務についている。胴体に装備しているのはファイアストリーク・ミサイル。

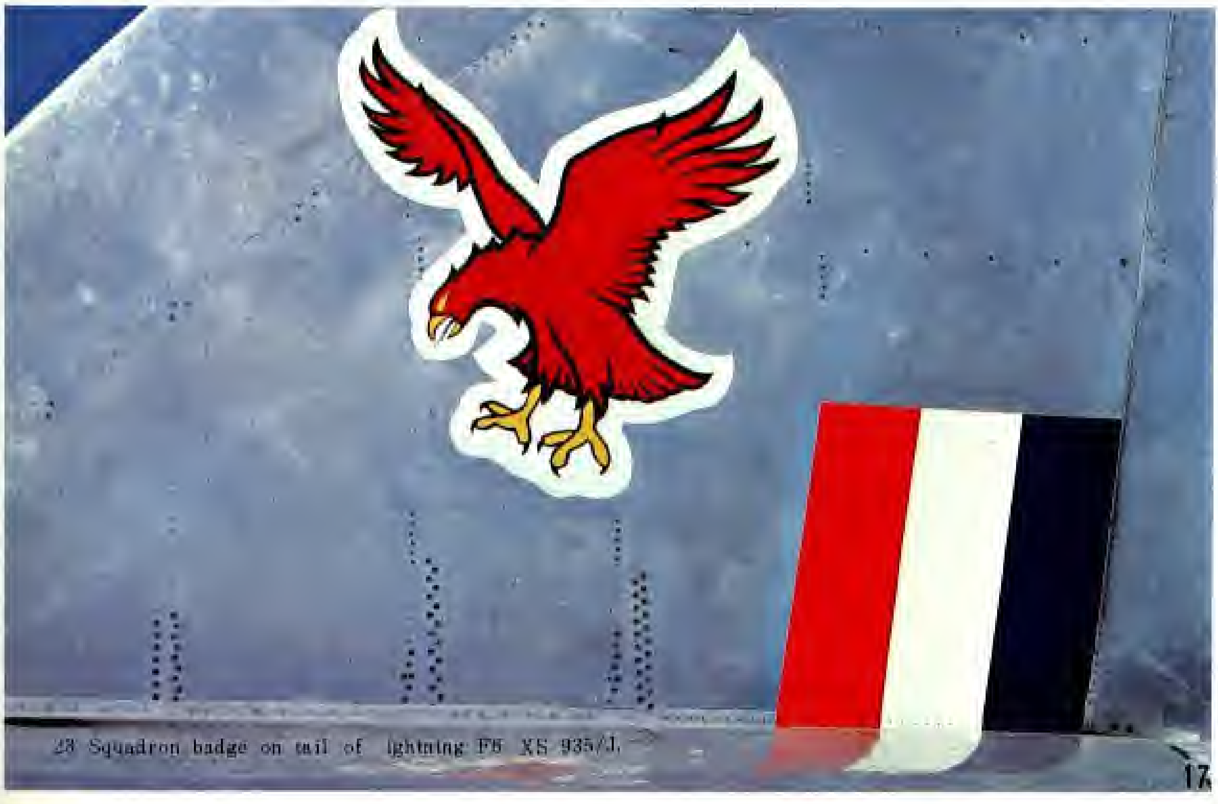


16 Lightning F6 XS935/J on take off from Leuchars. (Photo: Inter-Air Press)

[illegible]



〔上〕15ページと同じライトニングF6 XS927/0機の機首クローズアップ。〔下〕尾翼に画かれた23スコードロンのバッジ。"常に攻撃精神を"が同スコードロンのモットー。バッジは翼をひろげた赤わしである。



23 Squadron badge on tail of Lightning F6 XS 935/J.



Messerschmitt Me262 parked at Movie World Museum, Buena Park, Calif.

吾妻とともにオンタリオ空港近くの博物館が保有していたメッサーシュミットMe262。現在はカリフォルニア州[illegible]ーグスビーチ?ワールド」博物館の敷地内に展示されている。


T-2-489



Messerschmitt Me163 Komet and He162 Salamander at Movie World Museum.

ムービイ・ワールド博物館には台車に載せられたMe163コメートもある。右はHe162サラマンダー。同博物館は"カー・オブ・ザ・スターズ"という車の博物館。建物のなかには映画に出演した珍らしい各種の車が展示されている。ただし航空機のほうには関心がないのか、2次大戦の著名機たちも雨ざらしのまま。



Messerschmitt Bf109G



Me262 engine nacell close up.

日本やドイツそれに地元アメリカの第2次大戦機を集めてファンたちのメッカであったオンタリオ航空博物館が閉鎖した。2～3年ほど前のことである。所有機は各地に分散し，その1機の疾風は日本に帰った。

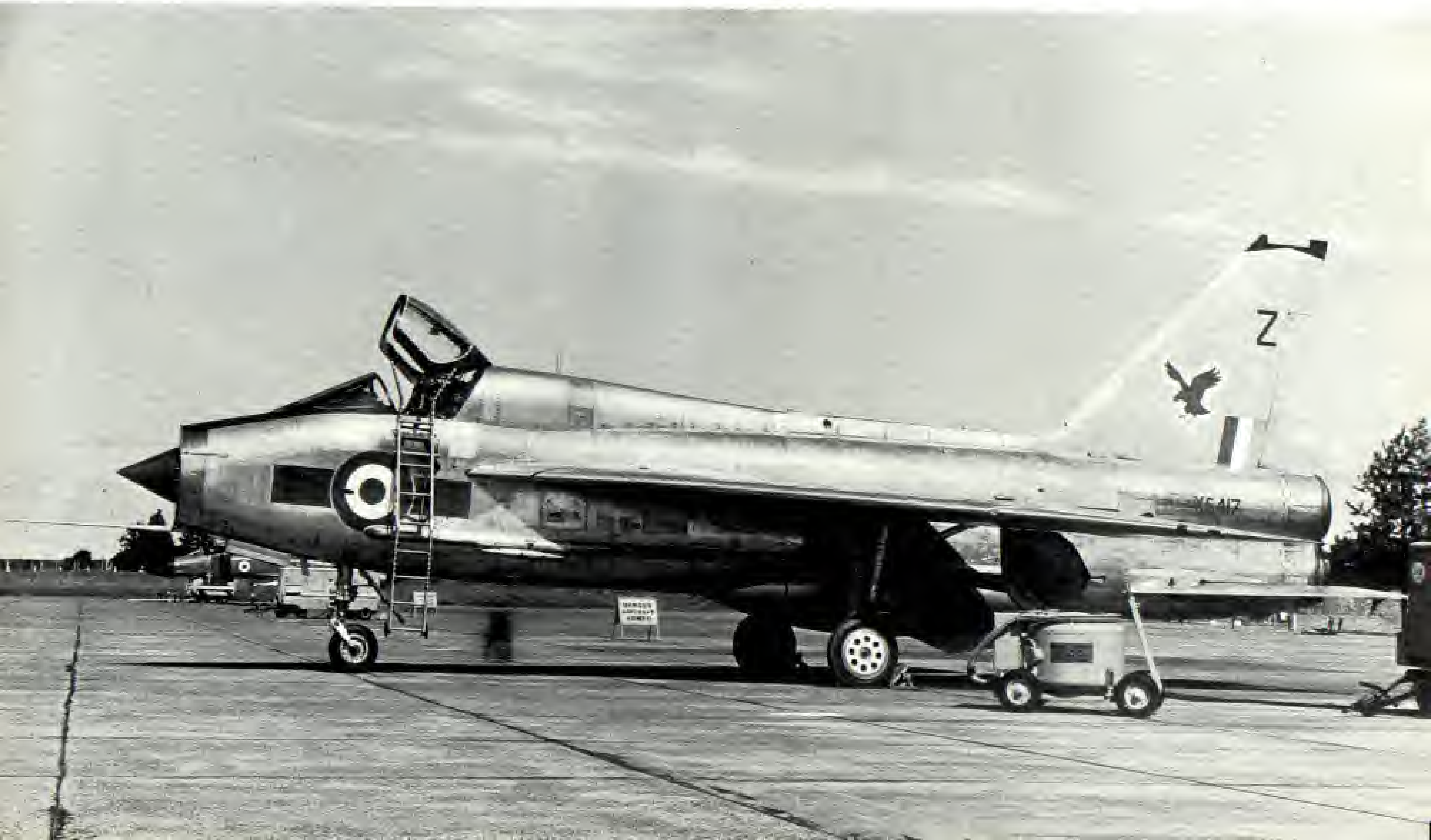
ムービイ・ワールド博物館には，オンタリオ博物館の花形であった雷電とドイツ機がごらんのように屋外にまとめて並べられている。所属ははっきりしないが買手を待っている状態でもあるという。

（上）メッサーシュミットBf109G。〔左〕Me262の右側エンジン部。オンタリオ航空博物館では，すべて現役当時の塗装に再現して，手入れの行きとどいた状態で展示されていた。

BACライトニングF.6戦闘機

BAC Lightning aircraft of No.23 Squadron, RAF Leuchars, Fire, Scotland, July 1973. (Photos by Inter-Air Press)

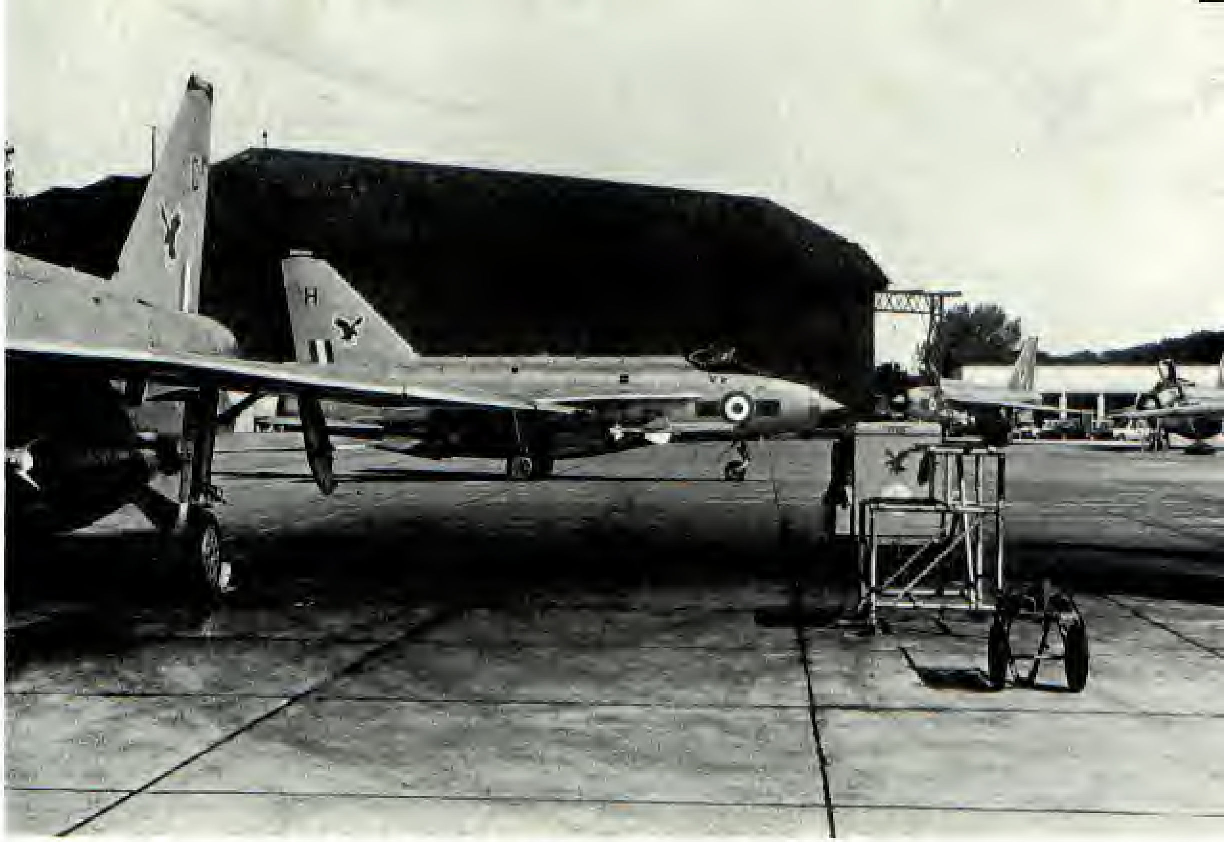
英空軍のBAC ライトニングT5。スコットランドのリューチャーズ空軍基地に配属されている第23スコードロンの所属機。写真の機体（XS417 Z）は、同スコードロンが持っている唯1機の複座練習型。





前ページと同じく第23スコードロンのライトニングF.6。第23スコードロンは最近このライトニングのF.6を装備したばかり。スコットランド北東の守りがその任務で，常時2機のライトニングF.6と2人のパイロット，地上要員がスクランブル待機についている。これまで偵察や演習で同方面にしばしば飛来したソ連機を迎撃したのも，この部隊のライトニングである。

Lightning F.6 XR760 H of No.23 Squadron. (Inter-Air Press)



Lightning F.6 XR760/H taxing back to the flight line.

ライトニングF.6の武装はアデン機関砲2門のほかに空対空ミサイルのファイアストリークかレッドトップを2発ずつ。左ページ写真の機体はレッドトップ，上の写真ではファイアストリークを装備している。

写真下はF.6の機首の国籍記章と第23スコードロンのバッジ

Detail of 23 Squadron badge on nose of Lightning F.6. (Photo by Inter-Air Press)





艦隊に配属されたS-3Aバイキング　The S-3A Viking decking aboard CVA59 FORESTAL

米海軍の新型対潜機S-3Aは，去る2月から艦隊への配備が開始され，このほどカリフォルニア州ノースアイランド基地でその艦隊配備を記念する式典が催された．写真上はバージニア沖で空母フォレスタルに着艦するS-3A．甲板上に着艦用拘束が見える．写真下同じくフォレスタル号上でのタッチ・アンド・ゴー．



MiG-21とAn-22

➡ソ連のターボプロップ巨人輸送機アントノフAn-22アンテス。軍用および民間の輸送機として戦車や自走ミサイル・ランチャー，建設器材などの大型重量物の輸送に活躍している。6脚・12個の主車輪がよくわかるスナップである。（APN）

⬇夜間飛行に発進準備中のMiG-21PF戦闘機。今年の3月の撮影である。（TASS）

➡Antonov An-22 Antheus in flight.

⬇MiG-21PF, ready for night flights soon to take place.







レニングラードのヘリ整備工場　　Helicopter Repairs made at Plane Repair Works in Leningrad.

⬆レニングラードのソ連民間航空省のヘリコプタ整備工場。ここではアエロフロートの装備機のほかに，東ドイツ，チエコ，フィンランド，ポーランド，パキスタンなど衛星諸国のヘリの改修も行なっている。写真に見えるのはミルMi-4ヘリコプタ。（TASS）

⬇ハットフィールドのホーカーシドレー工場で完成したHS146輸送機のモックアップ。同機はローカル線用に開発されている短・中距離ジェット旅客機で，乗客70～80人乗り，1977年，就航の予定。未整備の飛行場での運航を考えて，翼間距離を広くしているが，写真でもそれがよくわかる。

HS146のモックアップ　　HS.146 Full Scale Mock-up.





アラスカで寒冷地テスト中のコンコルド

⬆⬇アラスカのフェアバンクス国際空港を基地に，2月7日から2週間にわたって行なわれたコンコルドの寒冷地テストの模様。テストに使われたのは02号機で，マイナス40度Cでのエンジン始動テストのほか5回にわたって飛行テストを行ない，各種の機能をテストした。

Concorde 02 on the apron at Fairbanks Airport after a series of cold weather tests.





コンコルド量産2号機の飛行テスト

Concorde 202 in Flight Test

⬆飛行テストを開始したコンコルドの量産2号機(202)。同機はこのほどBAC社のフイルトン工場でロールアウトしたばかり。ブリティシュ・エアウエイズの塗装にして，002，01とともに，ブリストルのフェアフォード・テストセンターで飛行テストに入っている。

⬇3月30日，卓球選手団を乗せて羽田空港に飛来した中国民航（CAAC）のボーイング707-3J6C。同機はアメリカへのルート・サーベイを兼ねての飛来であり，東京からアンカレッジ経由でニューヨークへ向った。

Boeing 707-3J6C of CAAC at Tokyo Airport, 30 March 1974.
(Photo by T. Inoue)



カメラ・ル

岩国基地の海兵隊機



エンジン・テスト中のＴＡ-４Ｆスカイホーク。
第12司令付整備飛行隊（Ｈ＆ＭＳ-12）の所属機。


9
155680
9


10
155707


9


5
155585
VMA-
MARIN



　現在岩国基地に駐留している海兵隊航空部隊は、第12海兵飛行大隊（MAG-12）がA-4Eスカイホークの第211海兵攻撃飛行隊（VMA-211）、A-6Aイントルダーの第533全天候海兵攻撃飛行隊（VMA〈AW〉-533）、EA-6AとRF-4Bの第1海兵混成偵察飛行隊（VMCJ-1）、TA-4Fの第12司令部付整備飛行隊（H&MS-12）の4個飛行隊、そのほかに第15海兵飛行大隊（MAG-15）の第232海兵戦闘飛行隊が、F-4Jを持って任務についている。

　このページは第533全天候海兵飛行隊のA-6Aイントルーダー。同飛行隊のA-6Aは、最近機体の塗装が変ったが、左ページ上は、旧塗装のままの1機。









このページと次ページ上および中左は第232海兵戦闘飛行隊（VMFA-232)のF-4JファントムII。この部隊のファントムも胴体に画かれていた"レッド・デビル"のマークを垂直尾翼に移し、カラーページでおわかりのように、黒で書かれていたコード・レターを赤地に白ヌキにするなどきらびやかな塗装となった。

右ページ中右と下は、岩国基地への輸送・連絡を担当しているC-117スカイトレン。第17司令部付整備飛行隊（H&MS-17)の所属機で、数機が岩国に駐留している。

U. S. Marine aircraft at Iwakuni NAS. Photos taken by a reporter. Noted is tha plan painting has become showy.




WT
5754
VMFA-232
MARINES
10


10


MARINES
SZ


270
UNITED STATES M
SZ
17270



このページと次ページの上2枚は第 211海兵攻撃飛行隊（VMA-211）"ウェークアイランド・アベンジャーズ" のA-4Eスカイホーク。この部隊のスカイホークも機首の赤い帯を廃止し、ラダーの赤帯もなくなり、垂直尾翼の上端を赤くするなど塗装が変ったが、これは却ってあっさりとなった感じ。

右ページ下3枚は第12司令部付整備飛行隊（H&MS-12）のTA-4Fスカイホーク。






WA
4337
MARINES
02
01


CF
1988
MARINES


WA
4340
MARINES


03
WA03


WA
3484
MARINES
03



韓国ヨイドーの“航空博物館”







韓国のソウル特別市汝矣島（Y oi - do）5.16広場にある「「韓国戦争参戦軍用機展示場」にC-124グローブマスターが加わったことは5月号でも紹介したが、これに続いて去る3月25日からTAF-9Jクーガー、A-26インベーダー、F4U-4コルセアの3機種が仲間入りした。これにより同広場の展示機は8機となったわけで、東洋一の航空博物館としての陣容を整えつつある。

この5.16広場については昨年の7月号にも紹介されているので、重複を避けるが韓国参戦国協会では現在、F-84サンダーストリーク、F-89スコーピオンなどを獲得するため努力しているというから近い将来実現されることであろう。以下の写真は去る3月28日に本誌記者が撮影。

上の写真は手前からTF-51Dムスタング、F4U-4コルセア、C-124グローブマスターの順で、TF-51Dは韓国空軍が使用していたもの。左下は同じく韓国空軍のF-86Dセイバー全天候迎撃機。下はA-6の主翼の上から見たTF-51D。胴体に描かれている韓国文字は「大韓民国空軍」を意味する。

Progress is being made in the construction of the special district of Seoul, "YOIDO", under the YOIDO master plan. The war museum at the May 16 Plaza is a part of the plan as he symbol of freedom and peace. Recently four airplanes, C-124 Globemaster, TAF-9J Cougar, A-26 Invader and F4U-4 Corsair added, bringing the museum assets to eight airplanes. A reporter recently had an opportunity to photograph all eight planes now displayed.





A-26 Invader. After participating in the Vietnam War, this plane was kept at Davis-Monthan AFB, Arizona. From Davis-Monthan, it was transported by ship to Inchon on November 30, 1973, and placed on public dispaly on March 26, together with TAF-9 Cougar and F4U-4 Corsair.







前ページおよびこのページ上は去る3月25日に領収式が行なわれたA-26インベーダー。この機体はタイのナコンパノム空軍基地に駐留してベトナム戦に参加した56SOW.606SOS（特殊作戦飛行隊）の所属機で、任務を終えてアリゾナ州デビスモンサン基地に保管されていたもの。分解して船積みされた同機は昨年11月30日に仁川港へ到着、大型トラックでソウルの5.16広場に陸送され、韓国空軍整備隊の手で復元作業が行なわれて3月中旬に再組立てを終了した。このA-26は朝鮮戦争当時のB-26Kをカリフォルニア州のオンマーク社が改造して1967年からベトナム戦に参加したもので、朝鮮戦争当時のB-26Kとは内容が異なっている。機首に装備しているのは8挺の12.7mm機銃である。





▲B-29の副操縦士席計器盤。
▼C-124のコクピット中央ペデスタル。

▲B-29の爆撃手席計器盤。右側が爆弾倉扉の操作パネル。
▼A-26の副操縦士席計器盤。中央ペデスタル前方は通信／航法装置の操作パネルで、上からADF.VHF.TACAN。







フォート ニュース

〔上〕ピッチがあがるロッキードL1011トライスターの生産　写真はパームデール工場の最終組立てラインで現在全日空、デルタ航空、TWA向けのL1011の仕上げが進んでいる。最近これら3社は7機のトライスターの追加発注を行ない、今年中に引渡しを受けることになっている。ロッキードが昨年納入したトライスターは39機であるが、今年は最低42機を世界の主要航空会社7社に引渡す予定である。

〔下〕これはブレゲー・アビアシオン社のメルキュール組立て工程。メルキュールは完成した01、02号機で飛行テストを行なっており、02号機は去る2月12日に形式証明を取得した。







〔上〕胴体後部に貨物ドアがつけられたサベナ航空のボーイング747。サベナでは冬期のシーズン・オフで旅客が減少したときに機材を有効に使うため、747の後部キャビンに貨物室を設けた貨客混載型に改造しているが、ジャンボの混載型はサベナが最初。後部の貨物室は客室と完全に隔離され、パレットを6個、12～17トンの貨物が積める。貨物扉のサイズは幅3.40m、長さ3.05mである。

〔下〕ワシントン州エバレットのボーイング工場で組立てられている747ＳＰのモックアップ。747の静止試験用の胴体を使用したもので、主翼の前後をそれぞれ16フィート3インチと13フィート4インチ短縮、もとの747より18フィート短い後尾部分を取付けられ、実物の747ＳＰでは、上部デッキの左右に10個ずつの窓が設けられる。





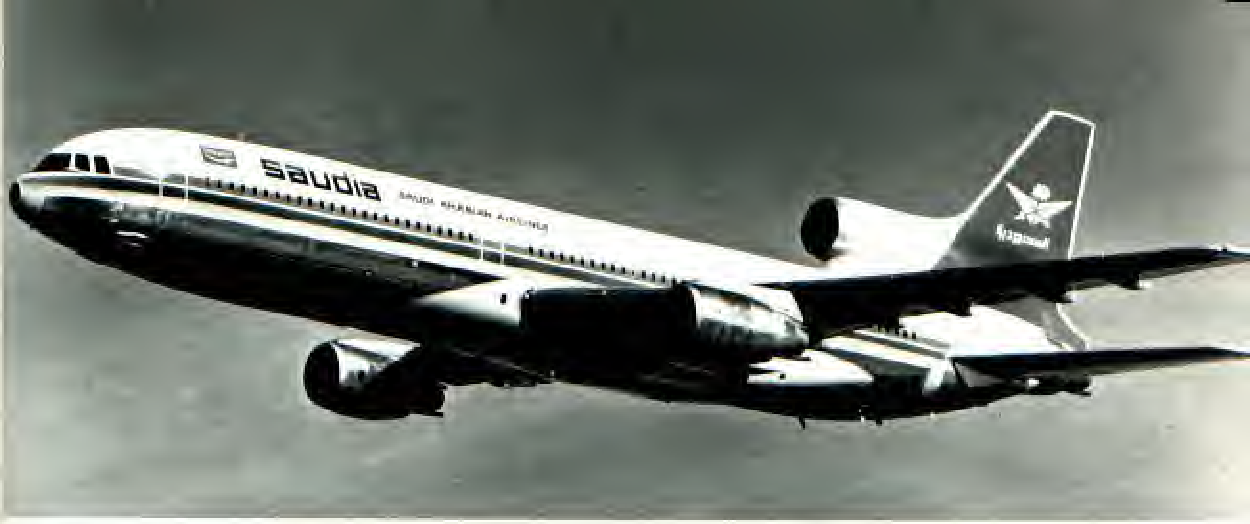
〔上〕このほどモスクワで開かれたアエロフロートの航空技術ショーに展示されたアントノフAn-28。An-14(プチョルカ) ターボプロップ化した型で、巡航速度は300km／hr。航続距離は800km以上。(TASS)



〔左〕ソ連のワ
ドボデイ旅客機
リューシンIℓ-
の完成模型。タ
ボファン4発の
50人乗りだが、
中海沿岸やスペ
ン方面のルート
は300人、長距離
際線では240～2
人乗りとして使
れる。アエロフ
ートでは約 200
を欲しがってい
といわれ、1号機
初飛行は1976年
予定である。
(TASS

〔下〕このほどソ連でテストに成功した有翼のスクリーン・クラフト。30馬力のエンジンを装備した1種の水陸両用機で、翼が機の下の空気層を圧縮し、そのクッションに支えられて飛翔するもので、地上に接近しているほど翼の効果が大きいという。最適飛行高度は1mだが、障害物がある場合は10mまで上昇できる。テストでは時速120kmを出しており、救難活動のほかに、漁業、地質調査、通信、建設など幅広い利用が期待されている。(TASS)





〔上〕サウジ・アラビア航空の塗装にしたロッキードL1011の完成予想写真。サウジアラビア航空（ＳＡＵＤＩＡ）では、このほど２機のトライスターを発注、追加分として３機を仮契約した。同航空が発注したトライスターは 259人乗り（ファーストとエコノミイ合計）で、総重量は基本型の43万ポンドから45万ポンドに増えており、航続距離も基本型より575マイル伸びて約４千マイル。同航空は1945年の設立、アジア、アフリカ欧州の47都市を結んでいる。





〔上〕ボーイングが海上自衛隊の次期対潜哨戒機の候補として製作を検討している 737-200改造の対潜機737 ＰＸＬ。最新型のジェネラル・エレクトリックＴＦ34エンジン（推力4,210kg）４基を装備、燃料タンクを増設しており、737-200よりも離着陸滑走距離が短縮され、飛行時間が長くなっている。最新式の対潜兵器倉、ソノブイ投下装置、戦略航法・自動フライト・コントロール・システムが装備される。737 ＰＸＬの最大の利点は、高速度で高々度の巡航が可能なほか、静かで振動のない機内、高い安定性を誇るエンジン、整備の容易さという。全幅28.3ｍ、全長31.3ｍ、全高11.3ｍ、最大離陸重量54,400kg、巡航速度400ノット、上昇限度10,700ｍ、離陸滑走距離1,700ｍ以下。

〔左〕漫画に登場する猫の顔のような機首。全日空向けのＬ1011トライスター２番機のクローズアップ。同機は４月１日から沖縄線に就航したが、これは南カリフォルニア州モハーベ砂漠上空を飛行中のもの。

スナップ だより







〔上〕尾翼に
イボーイ・バ
のマークをつ
第1艦隊飛行
Q-1）のEA
スカイウォー
3月中頃、厚
地で撮影。（名
市・穂科岳昭
〔左〕ドラッ
シュートを曳
から飛来した
61戦闘飛行隊
ージャース（
-161）所属の
N。3月中頃
木基地で撮影
翼下の増槽の
まに "さめロ
画いているの
意。（昭島市・
隆）
〔左下〕日本
離航空がシン
ールのセイバ
エアより購入
デハビランド
ダDHC-6ツ
オター。同航
は6月1日か
機のツインオ
で新潟—佐渡
幌—稚内など
線を運航する
になっている
これはその1
すでに2番機
ナダから導入
いる。（井上潤

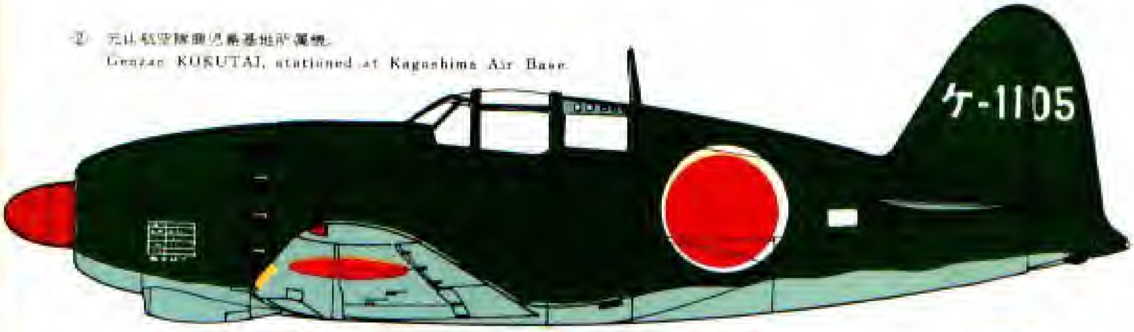
ワイドカラー
WIDE COLOUR

MITSUBISHI J2M3 "RAIDEN"

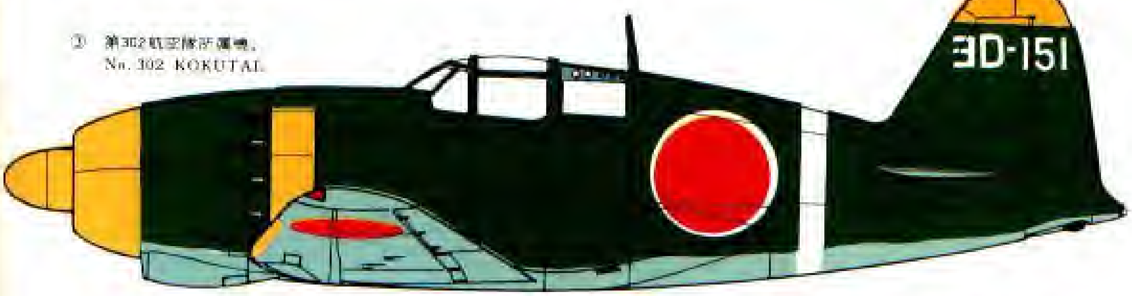
① 第352航空隊青木中尉機の右側面。
Starboad side of Lt. Y. Aoki's J2M3.



② 元山航空隊鹿児島基地所属機。
Genzan KOKUTAI, stationed at Kagoshima Air Base.



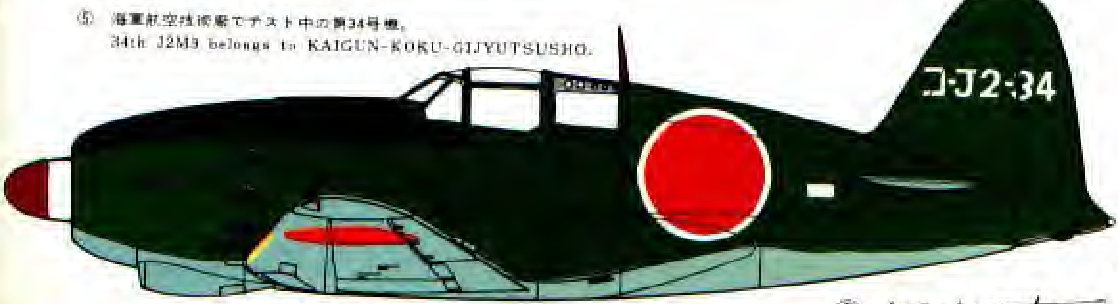
③ 第302航空隊所属機。
No. 302 KOKUTAI.



④ 英軍東南アジア方面航空技術情報隊でテストされた機体。
Flown by Allied Technical Air Intelligence Unit, South East Asia.



⑤ 海軍航空技術廠でテスト中の第34号機。
34th J2M3 belongs to KAIGUN-KOKU-GIJYUTSUSHO.



局地戦闘機“雷電”

MITSUBISHI J2M5 RAIDEN

30㎜機関砲を装備した雷電33型(J2M5)。123ページ写真と同じく，大型機攻撃のために主翼の外方の20㎜機銃を30㎜に代えた33型。その太い砲身がよくわかる。



Mitsubishi interceptor/fighter RAIDEN, J2M5. The Model-33 RAIDEN was mounted with the 1,800 Hp, Kasei-26-Ko high-powered engine. About 30 planes of this version had been produced when the war ended. Originally, this version was equipped with four 20 mm guns on the main wing. Later, two of the outer side were replaced with 30 mm guns, as seen in the photo, to cope with the B-29.



アメリカの雷電の近況

J2M3 RAIDEN still alive in U.S.A.





前ページとこのページは，かつてエド・マロニー氏の主宰するオンタリオ航空博物館が所有していた雷電21型。現在はカリフォルニアのブエナ・パークにある車の博物館"ムービイ・ワールド"の敷地に雨ざらしのまま置かれている。ワイド・カラー図にある352空の青木予備中尉機の塗装にしたもので，尾翼の"タイ101"はごあいきょう。





第８空軍のボーイングB-17フライングフォートレス

⬆B-17G "Mon Tete Rouge II" and her sister ships of the 452 BG enroute to blast German targets in France.

欧州の戦線で活躍した空の巨砲B-17フライングフォートレス。今回は"マイティ・エイト"第８空軍ひきいる下部隊の各機をまとめてご紹介することにしよう。

〔上〕は第452爆撃大隊(452BG)のB-17G"モン・テート・ルージュII"号。フランスのドイツ軍基地攻撃に向うところ。1944年３月28日の撮影。機体下面の細部がよくわかる写真である。



⬆攻撃目標に接近したB-17G。開かれた爆弾倉扉。まもなく黒い雨が地上を襲う。これもフランス上空にて。第381爆撃大隊の所属機。

On the bomb run over France, a B-17G of 381 BG has opened its bomb bay doors.

B-17G "Los Angels City Limits" of 381 BG, heads for a bomb run over enemy installations.

⬇厚い密雲の上を行くB-17G "ロスアンゼルス・シティ・リミッツ"号。第381爆撃大隊の所属機。下方にも群れをなしたB-17の編隊が見える。



ボーイングB-17フライングフォートレス



Boeing B-17F's of 91 BG, 401 BS

出撃するB-17F，第8空軍第91爆撃大隊第401爆撃中隊の所属機，コード・レターは"LL"





⬆これはパリのドイツ軍施設の攻撃に向う第94爆撃大隊のB-17F。上の機体は"ブレナンS"号。低空の進撃である。1943年9月15日の撮影。

B-17Fs of 94 BG on their way to a raid on Paris, 15 Sept. 1943.

⬇濃い雲の上を高度約18,000フィートで進入。第91爆撃大隊のB-17Fで、フランスのコニャック攻撃に向うところ。1943年12月3日の撮影。

B-17F of 91 BG enroute toward Cognac, France, fly at 18,000 feet altitude. 31 Dec, 1943.





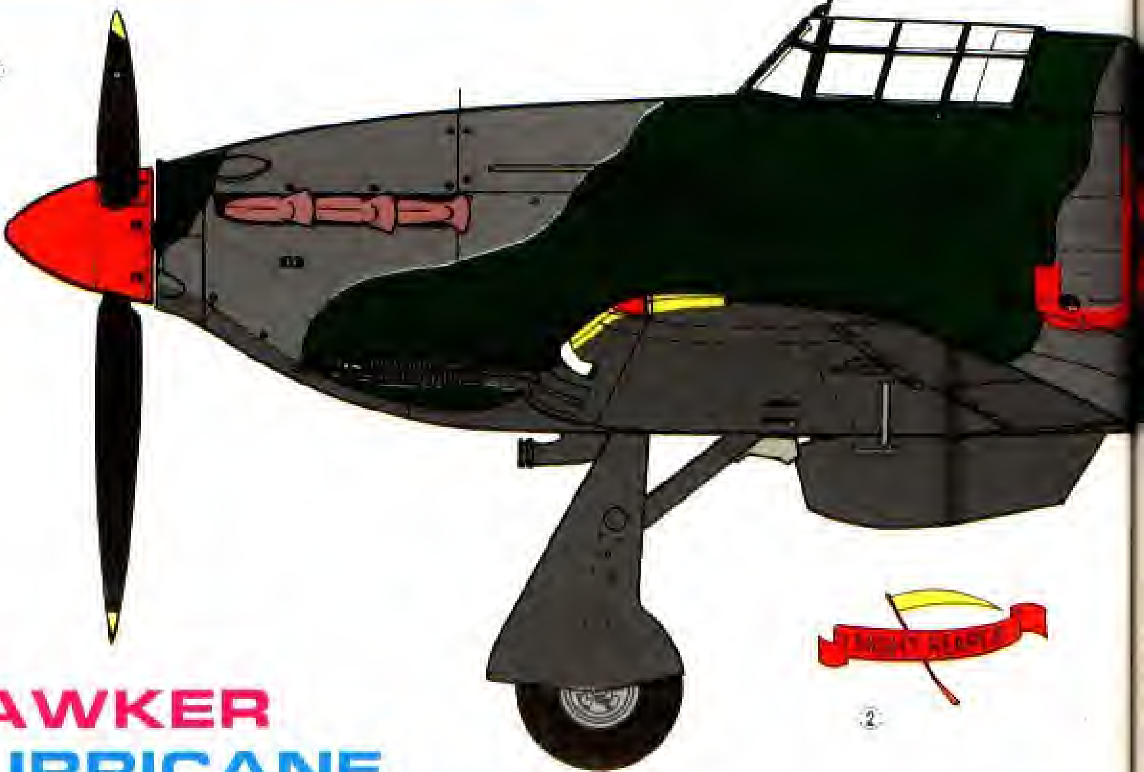
⬆目標上空，爆弾の投下開始．放たれたばかりの爆弾の落下の模様がよくわかる。第91爆撃大隊の各機である。

B-17G of 91 BG drop bombs on enemy installations.

⬇同じくフランスの敵陣攻撃に向う第91爆撃大隊のB-17G。牧歌的な田園上空を高度20,300フィートで進撃。1944年1月5日の撮影。

B-17G of 91 BG are shown over the patchwork landscap of France enroute to their target.



① 

②

HAWKER HURRICANE MK.I～IIC

1/32 SCALE KIT

③ 

① ハリゲーンMk.IIC、英空軍第1戦闘中隊のK.M.カトルヴォッシャー大尉の乗機。
Hurricane IIc of Flt. Lt. K.M. Kuttlewascher, No.1 Sqdn.

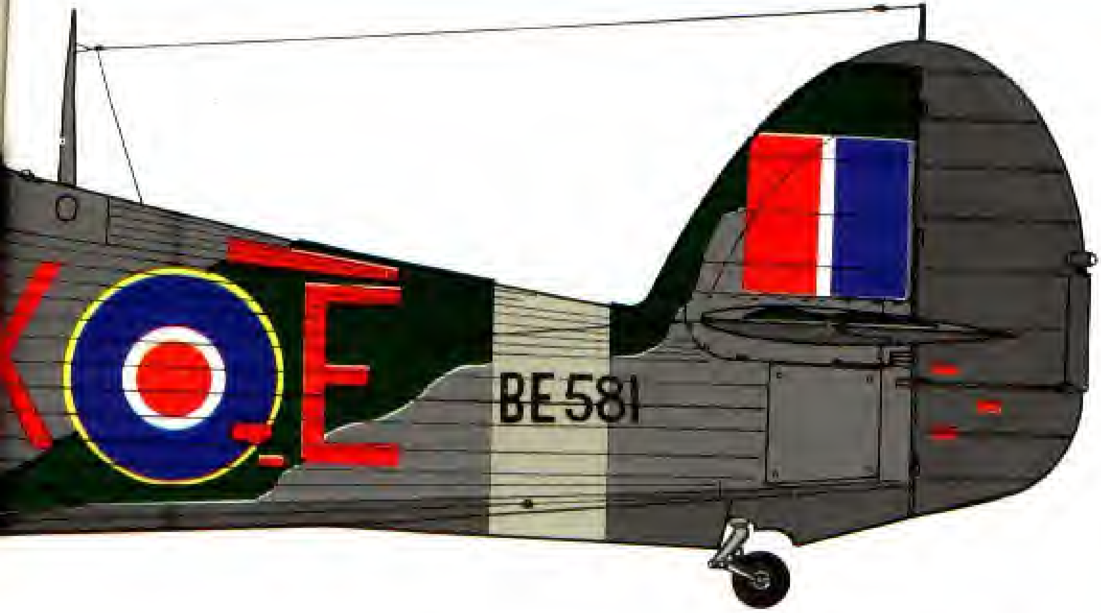
② 図①の機体の機首右側にあるマーク。
Nose emblem of Figure① aircraft.

③ 平面塗装例。
Typical camouflage scheme.

④ ハリケーンMk.I、第17戦闘中隊所属機。
Hurricane I of No.17 sqdn.

⑤ ハリケーンMk.I、第85戦闘中隊所属機。
Hurricane I of No.85 sqdn.

⑥ ハリケーンMk.IIc、インド空軍第1戦闘中隊所属機。
Hurricane IIc of No.1 sqdn., India A.F.



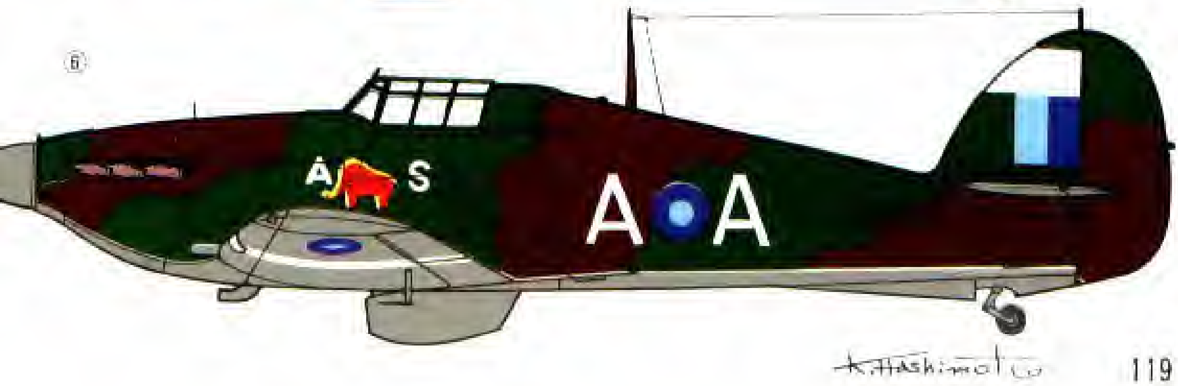
④



⑤



⑥



K.Hashimoto

ハイモデリングのための
レベル資料集

ホーカー　ハリケーンMk.Ⅰ～Ⅱc

HAWKER　HURRICANE　Mk.I～IIc



☆ キットの紹介 ☆

レベル1/32シリーズ大型モデルとして，ハリケーンのⅠ型が発売されている。

このキットはハリケーンの決定版ともいえる正確なプロポーションと精巧なモールドで定評のある優秀作品で，詳細をきわめたエンジンを内蔵し，精巧なコクピットや実感を出したデリケートな主脚などと，まったく申しぶんのないハリケーンとなっている。

デカールは３種が附属，大型カラー図もついている。なおレベル1/72シリーズでもハリケーンMK.ⅡBが発売中,新しい1/144スケールのレベル・ミニ・シリーズにもハリケーンがあり，各スケールで完備しているのがレベルのハリケーンである。

☆ 塗装について ☆

図①　イギリス空軍第1戦闘中隊のハリケーンMK.ⅡC。図のようにキットのスピナを長く改造し，胴体下のラジエーターの上下を少し大きくするほか，尾輪のフォークを図のように改造して主翼へ20㎜機関砲合計４門をつけるとⅡ型を作ることができる。なお，この機体は排気管の後上方にフィンがついている。フィンの幅は1/32スケールで約８㎜が適当。

図②のマークは右側排気管の下にあって，左右の長さは約3㎝に記入する。

塗装はダークグリーン㉓とダークシーグレイ㉕の迷彩で，下面と方向舵は黒つや消し，部分的にダークレッドのつぎはぎ部がある。主翼下面の国籍マークはなく，上面は図③のようにマークが記入されている。

図④　ハリケーンMK.Ⅰ。第17戦闘中隊所属機で，塗装はダークグリーンとダークアース㉒の迷彩，下面はスカイ㉔，胴体のマークはポパイにエンジェルの羽根がついているもの。

図⑤　ハリケーンMK.Ⅰ。第85戦闘中隊所属機で，迷彩はダークグリーンとダークアース，下面はアズールブルー㉞＋⑤＋①＋㉝少量，６角のマークは白。

図⑥　ハリケーンMK.ⅡC。インド空軍第１戦闘中隊所属機で，ダークグリーンとダークアースの迷彩，下面はスカイとなっており，主翼に細い白線がある。

（イラストと解説・橋本 喜久男）



←熱帯用に改造されたハリケーンⅠ。ハリケーンはソ連にも供与され，文字どおり極北の厳寒から，砂漠の炎熱まで，よく働いた。
Hurricane Ⅰ

↑これも気化器用空気取入口に熱帯用フィルターをつけたハリケーンⅡcの編隊。
Hurricane Ⅱc

KIT :

A large Hawker Hurricane kit is now on sale from the Revell 1/32 series. With its correct proportion and exquisite model, this is the "final edition" worthy of the name. Also noticeable is its elaborate cockpit, excellent engine and sharp gear struts. Three kinds of decal are attached to the kit. Like other large type 1/32 series kits, this also has a large color diagram. Kit fans will also be pleased to find another Mk. IIb kit on sale in the Revell 1/72 series, which has already established a reputation as a delicate piece of workmanship. Very recently, the 1/144 scale added, making Revell complete in each scale of Hurricane kits.

PAINTING :

Fig. 1. Hurricane Mk. IIc of RAF No. 1 Sqdn. It is easy to remodel the Revell kit to the Mk. II version as seen in this figure. Lengthen the spinner as shown in the figure. Thicken the top and bottom of radiator which is underneath the fuselage. Remodel the fork of the tail wheel as shown. Place a total of four 20 mm guns to the main wing. This RAF plane had a fin on the upper rear part of the exhaust tube. The fin's proper width is about 8 mm in the 1/32 scale model.
Fig. 2. The marking is under the right hand side exhaust tube. The left-right length of the marking is about 3 cm.
This is camouflaged in Revell Color (RC) 23, dark green, and RC-25, dark sea gray. The undersurfaces and the rudder are non-glare black, and partially dark red. There is no national insignia on the lower surfaces of the main wing. The national insignia are on the upper surfaces, as shown in Fig. 3.
Fig. 4. Hurricane Mk. II of RAF No. 17 Sqdn. Camouflaged in RC-23, dark green and RC-22, dark earth. Undersurfaces are RC-24, sky. The fuselage marking is a sailor with the Angel's feather.
Fig. 5. Hurricane Mk. I of RAF No. 85 Sqdn. The camouflage is dark green and dark earth, and the undersurfaces are azure blue which is made by mixing RC-34, 31, 1 and 33. The hexagon marking is white.
Fig. 6. Hurricane Mk. IIc of Indian AF, No. 1 Sqdn. It is camouflaged in dark green and dark earth. The undersurfaces are sky. There was a white stripe on the main wing.
(Illustration and commentary by Kikuo Hashimoto)

Revell Color for Hurricane :

RC-1	white	4	yellow
8	silver	22	dark earth
23	dark green	25	dark sea gray
24	sky	33	non-glare black
34	sky blue	31	gray
3	red	41	red brown

ハリケーンの塗装に必要なレベル・カラー

①ホワイト	④イエロー
⑧シルバー	㉒ダークアース
㉓ダークグリーン	㉕ダークシーグレイ
㉔スカイ	㉝黒つや消し
㉞スカイブルー	㉛軍艦色
③レッド	㊶レッドブラウン

ハイモデリングのための
レベル資料集

ホーカー　ハリケーンMk.Ⅰ～Ⅱc

HAWKER　HURRICANE　Mk.Ⅰ～Ⅱc



☆ キットの紹介 ☆

レベル1/32シリーズ大型モデルとして，ハリケーンのⅠ型が発売されている。

このキットはハリケーンの決定版ともいえる正確なプロポーションと精巧なモールドで定評のある優秀作品で，詳細をきわめたエンジンを内蔵し，精巧なコクピットや実感を出したデリケートな主脚などと，まったく申しぶんのないハリケーンとなっている。

デカールは3種が附属，大型カラー図もついている。なおレベル1/72シリーズでもハリケーンMK．ⅡBが発売中，新しい1/144スケールのレベル・ミニ・シリーズにもハリケーンがあり，各スケールで完備しているのがレベルのハリケーンである。

☆ 塗装について ☆

図① イギリス空軍第1戦闘中隊のハリケーンMK．ⅡC。図のようにキットのスピナを長く改造し，胴体下のラジエーターの上下を少し大きくするほか，尾輪のフォークを図のように改造して主翼へ20mm機関砲合計4門をつけるとⅡ型を作ることができる。なお，この機体は排気管の後上方にフィンがついている。フィンの幅は1/32スケールで約8mmが適当。

図②のマークは右側排気管の下にあって，左右の長さは約3cmに記入する。

塗装はダークグリーン㉓とダークシーグレイ㉕の迷彩で，下面と方向舵は黒つや消し，部分的にダークレッドのつぎはぎ部がある。主翼下面の国籍マークはなく，上面は図③のようにマークが記入されている。

図④ ハリケーンMK．Ⅰ。第17戦闘中隊所属機で，塗装はダークグリーンとダークアース㉒の迷彩，下面はスカイ㉖，胴体のマークはポパイにエンジェルの羽根がついているもの。

図⑤ ハリケーンMK．Ⅰ。第85戦闘中隊所属機で，迷彩はダークグリーンとダークアース，下面はアズールブルー㉞＋㉛＋①＋㉝少量。6角のマークは白。

図⑥ ハリケーンMK．ⅡC。インド空軍第1戦闘中隊所属機で，ダークグリーンとダークアースの迷彩，下面はスカイとなっており，主翼に細い白線がある。

（イラストと解説・橋本 喜久男）



←熱帯用に改造されたハリケーンI。ハリケーンはソ連にも供与され，文字どおり極北の厳寒から，砂漠の炎熱まで，よく働いた。
Hurricane I

↑これも気化器用空気取入口に熱帯用フイルターをつけたハリケーンIIcの編隊。
Hurricane IIc

KIT :

A large Hawker Hurricane kit is now on sale from the Revell 1/32 series. With its correct proportion and exquisite model, this is the "final edition" worthy of the name. Also noticeable is its elaborate cockpit, excellent engine and sharp gear struts. Three kinds of decal are attached to the kit. Like other large type 1/32 series kits, this also has a large color diagram. Kit fans will also be pleased to find another Mk. IIb kit on sale in the Revell 1/72 series, which has already established a reputation as a delicate piece of workmanship. Very recently, the 1/144 scale added, making Revell complete in each scale of Hurricane kits.

PAINTING :

Fig. 1. Hurricane Mk. IIc of RAF No. 1 Sqdn. It is easy to remodel the Revell kit to the Mk. II version as seen in this figure. Lengthen the spinner as shown in the figure. Thicken the top and bottom of radiator which is underneath the fuselage. Remodel the fork of the tail wheel as shown. Place a total of four 20 mm guns to the main wing. This RAF plane had a fin on the upper rear part of the exhaust tube. The fin's proper width is about 8 mm in the 1/32 scale model.
Fig. 2. The marking is under the right hand side exhaust tube. The left-right length of the marking is about 3 cm.
This is camouflaged in Revell Color (RC) 23, dark green, and RC-25, dark sea gray. The undersurfaces and the rudder are non-glare black, and partially dark red. There is no national insignia on the lower surfaces of the main wing. The national insignia are on the upper surfaces, as shown in Fig. 3.
Fig. 4. Hurricane Mk. II of RAF No. 17 Sqdn. Camouflaged in RC-23, dark green and RC-22, dark earth. Undersurfaces are RC-24, sky. The fuselage marking is a sailor with the Angel's feather.
Fig. 5. Hurricane Mk. I of RAF No. 85 Sqdn. The camouflage is dark green and dark earth, and the undersurfaces are azure blue which is made by mixing RC-34, 31, 1 and 33. The hexagon marking is white.
Fig. 6. Hurricane Mk. IIc of Indian AF, No. 1 Sqdn. It is camouflaged in dark green and dark earth. The undersurfaces are sky. There was a white stripe on the main wing.
(Illustration and commentary by Kikuo Hashimoto)

Revell Color for Hurricane :

RC-1	white	4	yellow
8	silver	22	dark earth
23	dark green	25	dark sea gray
24	sky	33	non-glare black
34	sky blue	31	gray
3	red	41	red brown

ハリケーンの塗装に必要なレベル・カラー

①ホワイト	④イエロー
⑧シルバー	㉒ダークアース
㉓ダークグリーン	㉕ダークシーグレイ
㉔スカイ	㉝黒つや消し
㉞スカイブルー	㉛軍艦色
③レッド	㊶レッドブラウン

レベルカラー



イギリスのヘンドンにある英空軍博物館に展示されているハリケーンMk.I。現在世界に現存する唯1機のハリケーンである

局地戦闘機"雷電"

NAVY INTERCEPTOR-FIGHTER "RAIDEN"



〔前ページ〕雷電33型（Ｊ２Ｍ５）。終戦後の1945年10月から12月にかけて、廃棄のために追浜の飛行場に集められた１機。雷電33型は21－31型の火星23型甲エンジンを火星26型甲に換装した性能向上型で、30機余生産されたが、その一部は写真の機体のように主翼の20ｍｍ機銃４門のうち、外方の２門を30ｍｍ機関砲に換装してＢ-29にそなえた。

〔右〕これも追浜に運ばれた30ｍｍ機関砲装備の雷電33型。厚木基地から運ばれた１機と思われるが、同基地の302空の雷電は30ｍｍ機関砲のほかに斜め銃を装備したのも数機があった。しかし本文77ページ記事にあるように零戦に慣れたパイロットにとっては馭（ぎょ）しがたい"じゃじゃ馬"雷電。Ｂ-29に対しても昼間迎撃では威力を発揮したが、夜間ではかんばしい戦果をあげることができなかった。

〔下２枚〕排気タービン付きの雷電32型（Ｊ２Ｍ４）。32型は高々度の性能改善のために発動機架右側に排気タービンを装備したもので、三菱で２機、空技廠で１機が試作された。写真は戦後大村基地で押収された三菱製の１機で、試験飛行のために同基地に運ばれたものと思われる。1945年９月28日の撮影。

➡ Mitsubishi J2M5 RAIDEN parked at Oppama airfield, Oct. ~ Dec. 1945, waiting for her turn of destruction. (USMC photo)

⬇J2M4 RAIDEN Model 34 powered by a turbosupercharged Mk4R-C Kasei 23C. Only three of this version were completed. Oppama, 23 Sept. 1945 (USMC photo)









〔右〕これも戦後、廃棄のために追浜に運ばれた雷電21型（Ｊ２Ｍ３）。21型は11型の機首の7.7ｍｍ機銃を廃し、主翼の20ｍｍ機銃を４門としたもの。雷電ではこの21型がいちばん多く作られ、改修機も含めて約300機が生産された。これも厚木基地から空輸された１機と思われる。21型は４機がこの追浜から空母に積まれてアメリカに運ばれ、テストされている。

J2M3 RAIDEN at Oppama airfield. Note the U.S. national insignia allowing the airplane to ferry into the base. ➡ (USMC photo)



〔下〕昭和19年８月から終戦まで、佐世保から大村地区の防空に活躍した第352航空隊の雷電21型（Ｊ２Ｍ３）。写真の機体はワイドカラー・プロファイルで採りあげた青木義博予備中尉（左から２人目）機。昭和20年８月１日に、大村基地で撮影したものである。同航空隊の雷電は分隊長が２本の電光マーク、区隊長は１本の電光マークを胴体に画いていた。

〔右〕台南航空隊に配属された雷電21型。昭和19年７月15日、同航空隊の青木義博予備中尉が空輸中のもので、台南空には２機の雷電21型が配備されたが、これはその第１号機（タイ101）。なお同予備中尉はのちに352空に転属した。









← J2M3 RAIDEN flown by Lt. Yoshihiro Aoki of No. 352 KOKUTAI. Omura airfield, 1 Aug. 1945

↑ No. 1 machine of J2M3 RAIDEN for Tainan KOKUTAI. piloted dy Lt. Y. Aoki, it is on the way for the delivery.



↑J2M3 RAIDEN of Genzan KOKUTAI





〔左〕元山航空隊に配備された雷電21型。実戦部隊で雷電に機種改変した搭乗員たちは、大直径のエンジンをおおった太い機首に視界不良を訴え、着陸速度の速さにとまどった。とくに前方視界の問題は最後まで本機のガンであった。製造会社の三菱でも、この視界問題にとり組んで、21型では風防を50ｍｍ高くし、幅も80ｍｍふやしてさらに上部発動機架覆いの上部両側面を削るなど改善につとめている。雷電21型でこの改造を施したものを31型（Ｊ２Ｍ６）と呼んだが、この改造で速度は大幅に低下することになり、搭乗員たちは改造前の21型を好んだという。

上の写真と124～125ページ上および130ページ下の31型の写真と比較すると風防まわりの違いがよくわかる。31型では後方にスライドする風防の部分に補強のためにワクが１本追加されているのに注意。

〔左下・下〕厚木を基地に活躍した第302航空隊の雷電21型。昭和19年３月に編成された302空は３飛行隊から成る帝都防空部隊。第1飛行隊が雷電部隊で、20年２月の最盛期には30機余が装備された。

⬇J2M3 of No. 302 KOKUTAI stationed at Atsugi airfield. The KOKUTAI, organized in March 1944, took an active role of Capital air defense until the war ended.





⬆J2M3 RAIDEN interceptor-fighter of No. 302 KOKUTAI heading toward the runway to take off for a mission of intercepting B-29 bombers.







〔左ページ上〕これも302航空隊の雷電21型。迎撃に発進するシーンである。この部隊の搭乗員たちも、エンジン・トラブルや視界不良などで、本機を乗りこなすには苦労したが、一部は南九州や伊丹方面に派遣されてB-29の迎撃に活躍、終戦までもっとも志気の高い海軍戦闘機部隊の一つでもあった。写真は昭和20年春頃の撮影と思われる。

〔左〕同じく302空の雷電31型。31型は機首や風防部分を改造して視界を改善した型ではあるが、生産は少数機にとどまった。

〔上〕127ページ下と同じく、台南空に配備された雷電21型。のちにタイ101となった機体で青木義博予備中尉の操縦で、同航空隊に空輸中を僚機から撮影したもの。

⇐J2M6 of No. 302 KOKUTAI. The KOKUTAI, very high in moral, was one of the "hopes" of the Japanese Navy until the war termination, having overcomed difficulties involving RAIDEN, the plane unpopular because of frequent engine trouble and poor maneuverability.

未発表 海軍機写真集



D4Y2-S SUISEI. Armed with two 20 mm MG's mounted aslant, this liquid cooled divebomber was used as a night-fighter. Kengun airfield, Kumamoto, Kyushu, 15 Oct. 1945 (USMC photo)

終戦のころの海軍機。今回は彗星と零式輸送機の未発表写真を特集しました。

〔上〕熊本の健軍飛行場で撮影した彗星と右は97式戦闘機。終戦2カ月目の1945年10月15日の撮影であるが、両機とも完全な状態である。写真の彗星は、後席後方の旋回銃を廃止して、99式20mm機銃2門を斜前上方向に固定装備した12戊型（D4Y2-S）。その"斜め銃"はとりはずされているが、風防の後方部分が同機銃装備のために不透明の金属張りとなっているのに注意。複座で航法に便利であった点をかわれて改造されたもので、夜間戦闘機としてB-29の迎撃に使われた。

〔右〕同じく"斜め銃"を装備した彗星12戊型。機銃とプロペラがはずされて、風防も破られているが、ほかは良好な状態である。1945年11月4日、岩国航空基地にて撮影。



➡ D4Y2-S SUISEI disarmed at Iwakuni. No propeller; good condition otherwise. 4 Nov. 1945 (USMC photo)



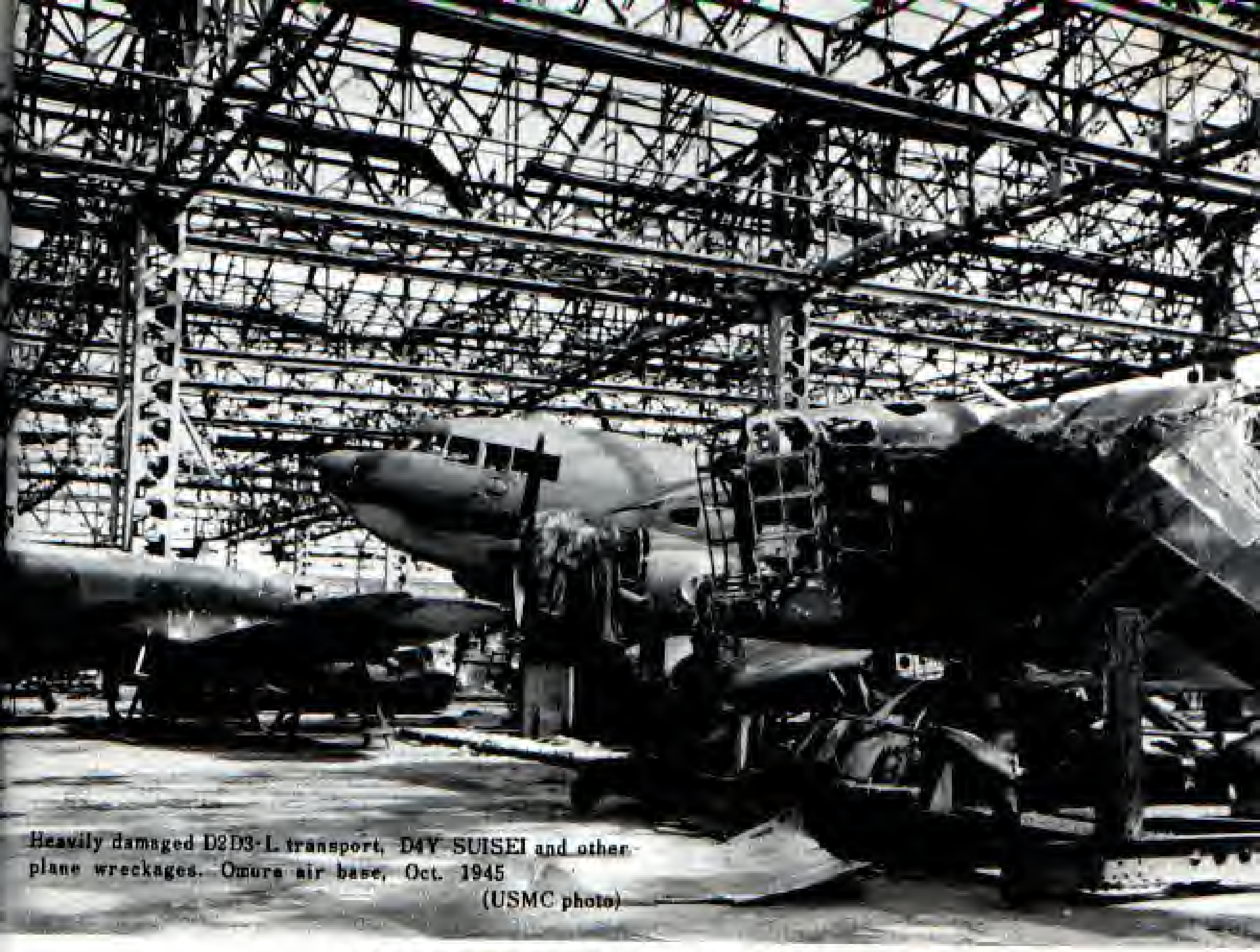




↑ Night-fighter version of D4Y2-S SUISEI, Omura air base, 4 Oct. 1945

〔上〕前ページと同じく夜間戦闘機として使われた彗星12戊型。これは大村飛行場のハンガー内で1945年10月4日に撮影。





Heavily damaged D2D3-L transport, D4Y SUISEI and other plane wreckages. Omura air base, Oct. 1945
(USMC photo)

〔上・左・下〕終戦後に大村基地のハンガーで撮影した零式輸送機。写真上は金星53型エンジンを積んだ22型（L 2 D 3）、左と下は同型機を改造した零式貨物輸送機22型（L 2 D3-L）である。下の写真で胴体後部の貨物扉が開かれているのに注意。同扉は左側面のみにつけられていた。左と下の機体は美保基地の第1081航空隊の所属機である。左は1945年10月20日、上と下9月24日の撮影である。上の写真で手前に見えるのは97式飛行艇の尾部銃座。

⬅⬇ L2D3 twin-engined transport found in a ruined hanger at Omura air base, 24 Sept. 1945
(USMC photo)







Remained in a hanger at Omura air base were an LD3D transport, the tail section of H6K flying-boat and many other junk pieces, when disarmed. (USMC photo)

〔上〕これも大村航空基地ハンガー内の零式荷物輸送機22型（L2D3-L）で、第1081航空隊の所属機。右側に艦爆彗星が並んでいる。1945年10月4日の撮影。

〔下〕熊本の健軍飛行場に放置された零式輸送機11型。11型は金星43型エンジン装備。金星53に換装した22型では操縦席側方の窓も増やされている。10月26日の撮影。



L2D2 Zero-type transport at Kengun airfield Kumamoto, 26 Oct. 1945 (USMC photo)

Mfg works of all-wood trainer, Ki-107

（本文82ページ記事参照）



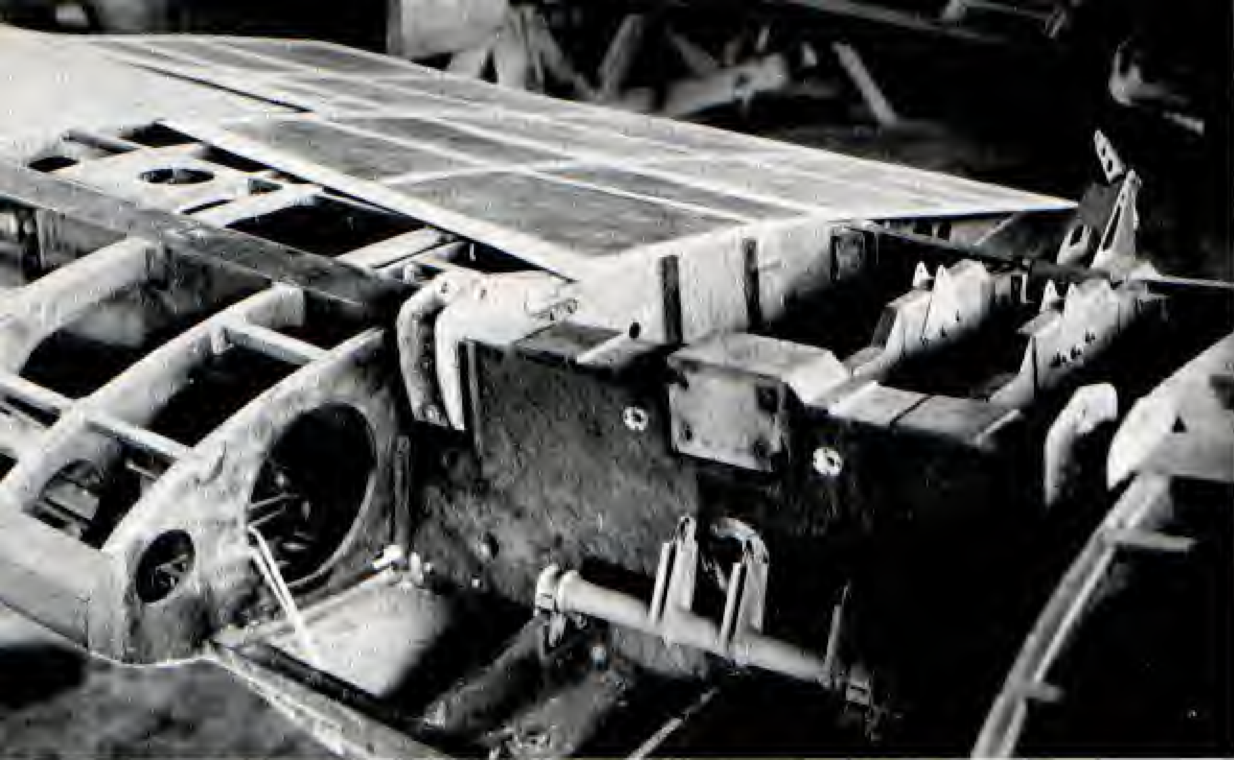
木製機キ107の生産工場

5月号につづいて、これまであまり採りあげられなかった全木製の練習機キ107。これは生産工場の貴重な記録である。82ページの「純国産木製軍用機の誕生」とあわせてごらんください。以下は設計者の井上真六氏の解説である。

〔上〕終戦時の全体組立工場の一部。組立て完成された6機の列が見える。同工場にはこのような組立てラインが2列あり、その他地上試運転場にも数機があった。したがって終戦時に工場内で完成したものは約20機である（主翼、尾翼、胴体として完成したものは70号機まであった）。完成機の発動機覆いは地上試運転のときまで取付けなかった。

〔右〕主翼組立て工場の一部。鋼製堅型主翼組立て治具の列が見える。この治具が終戦時には8台作られていた。手前の治具には前縁部が載せられ、補助桁が置かれ、補助翼支持金具が治具に合わせて取付けられているのが見える。





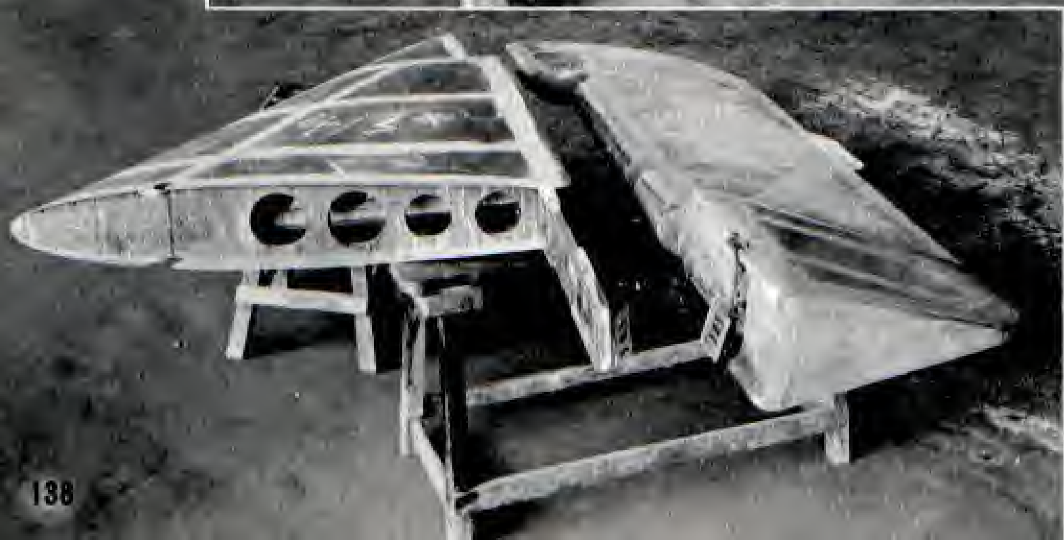
〔上〕主翼中央部。主翼組立て治具からおろされた主翼にはさらに操縦装置、燃料タンク、同配管、ピトー管と空気導管、脚柱などの取付けが行なわれて仕上げられる。

〔右〕水平尾翼。中央部に水平安定板の3本の桁とその胴体への取付金具が見える。その後方に昇降舵操作レバーが見える。後縁部には修正➡



➡タブが付いている。タブにはレバーが付いていて、細い鋼索で操作される。

〔左〕垂直尾翼。方向舵の下部が胴体端末の形に合わせてふくらんでいるのがわかる。この部分に方向舵操作レバーが見える。垂直安定板の後桁は下方に伸びている。これは胴体最後端框材に取付けられる。41号機の字がよめる。





〔上〕1971年1月8日からサベナのブラッセル～ニューヨーク間の大西洋路線に登場したジャンボ・ジェット・ボーイング747-129の1号機（00-SGA）。サベナでは本機を2機保有しており、現在アメリカへの大西洋路線とアフリカ路線に飛ばしている。

〔下〕1973年9月23日に受領したDC-10-30CFの1番機（00-SLA）。本機はサベナも1員であるアトラス・グループの決定で購入することになったもの。客席252座席設けられるが、サベナではファスート・クラス18席とエコノミイ169席の計187席。ほかに7トンの貨物を積む。サベナでは本機をアフリカ、極東路線用に導入したが、昨年末から手はじめにアメリカ路線に就役させており、極東に飛ばすのは今年の4月から、6月までにもう1機導入して、アフリカ路線に就役さす。サベナでは今年中にボーイング737を導入する計画であり、今年末のジェット旅客機は、ボーイング747が2機、707-329が12機、737-200が6機、727-29が3機、DC-10-30CFが2機の陣ようとなる。

エアラインの翼

SABENA　ベルギー航空　⑩





Flying near Mt. Fuji are three North American F-6D photo rec. planes of the 82nd TRS, Johnson AFB, Iruma. 1946

2 次大戦機スナップ集

先月号につづいて、カリフォルニア州ウードランド・ヒルのC.M.ダニエル氏が撮影した2次大戦機。同氏のカメラには、終戦直後の日本の各基地における米軍用機がいっぱいおさめられている。戦塵を洗い落すいとまもない緊張した表情のままの各機である。〔上〕写真偵察型のムスタングF-6D。富士を背景に飛行中。入間川のジョンソン空軍基地に駐留した第82戦術偵察中隊の所属機で、シリアルは414874、484514、413034の3機。1946年の撮影。

●私のアルバムから● by C.M.DANIELS



〔上〕これも終戦翌年の1946年に関東地区上空を飛行中の第82戦術偵察中隊（82nd　ＴＲＳ）所属のムスタングの写真偵察型。手前の２機（シリアル411937と411917）はＦ-６Ｋ、後方の１機（41487）はＦ-６Ｄである。
〔下〕厚木基地の近くに不時着した４式重爆"飛龍"。これも1946年の撮影である。

↑Three F-6 Mustangs of 82nd TRS. Japan, 1946.
↓Mitsubishi Ki-67 HIRYU Bomber left about near Atsugi NAS, 1946

